

行政減量・効率化有識者会議ヒアリング（H20. 5. 21）における
主な意見〔未定稿〕

日 時：平成 20 年 5 月 21 日（水） 15:20～16:00

場 所：総理官邸 4 階大会議室

出席者：茂木（座長）、逢見、翁、小幡、櫻谷、菊池委員、富田、森 の各委員
安念、梶川、草野、鳶 の各専門委員

説明者側：新島職業能力開発局長、草野審議官ほか

〔意見〕

- ・（職業体験事業については国が支援を行い、館の運営部分については受託業者に収支均衡を目指してもらうという方針について、）要は赤字が続くってことだな。施設の値段はどんどん下がっており、赤字垂れ流しは変わらない。
- ・ やはりものづくりは重要。キャリア教育は国の労働施策としてやるべきであり、国が負担すべき。
- ・ 問題はコストのかけ方であり、こんなに立派な施設を作らなければ職業体験事業ができないのか。設備投資が過大すぎる。機構は全体的にコスト意識が全くない。
- ・ 計画当時は、公共事業は景気拡大のために必要という考え方があった。今から見れば過大な投資となるが、当時は必要という考えだった。売っても元が取れないのだから、今ある施設をどのように使っていくかを考えるべきだ。
- ・ 職業体験事業以外の部分で収支均衡を図るのは、決して楽な話ではない。
- ・ ニート、フリーター、女性、高齢者等を対象とした重要な雇用対策を実施する上では、できるだけ税金を投入せず、機構の全事業を大胆に見直した結果浮いたお金を充当すべきではないか。
- ・ バブルの頃とはいえ設置費用として 500 億円も使ったというのは驚き。500 億円は戻って来ないのだから。今後いかにアウトフローを少なく済ますか、そのためにどのような選択肢があるのかを考えなければならない。
- ・ 私のしごと館の存廃を含めたあり方の検討をする際には、今後のキャッシュの動きを見込んで、①廃止して売却するシナリオと、②存続するシナリオの両方についてコストを比較・検証すべきだ。
- ・ 機構の法人形態のあり方について、閣議決定では 1 年を目途に存廃を検討することに

なっているので、検討を急がなければならない。しごと館については、1年以内に存廃を含めて検討することになっているのだから、民間委託実施中も、事業終了のシナリオも描きつつやってもらわなければならない。また、前回お願いしたようなシミュレーションをしてやっていただきたい。

- ・ 離職者訓練・在職者訓練に500億円余りを費やしているが、真に効果的な訓練がなされているのか。費用対効果が上がっていると言えるのか。訓練科目のリニューアルをよくやっているようだが、逆に言えば本当に必要なニーズを拾っていないことの裏返しではないか。

〔結び〕

- ・ 本会議として、私のしごと館の委託の手続きを始めてもらうことについては了承し、年末に評価を行うことについて確認する。